

# 環境経営レポート

2017年度

期間 2017年3月～2018年2月



エコアクション21

認証・登録番号 0008654



有限会社 細川樹脂



作成 2018.6.30

改正 2018.8.15

## 目次

1. 会社概要	Page 3
2. 対象範囲	Page 4
3. 環境経営組織	Page 4
4. 環境経営方針	Page 5
5. 環境経営計画	Page 6
6. 環境経営活動の状況	Page 8
7. 環境関連法規等の遵守状況	Page 9
8. 代表者による全体の評価と見直しの結果	Page 9

# 1.会社概要

- (1) 事業所 有限会社 細川樹脂 <http://www.hosokawajushi.co.jp>  
 電話:044-433-3950 FAX:044-433-6211
- (2) 所在地 本社 〒211-0022 神奈川県川崎市中原区荻宿30-1  
 敷地面積 244.7m<sup>2</sup> 床面積 337.4m<sup>2</sup>  
 第2工場 〒211-0022 神奈川県川崎市中原区荻宿45-1 帝国通信工業構内5号棟  
 敷地面積 92.3m<sup>2</sup> 床面積 141.3m<sup>2</sup>

(3) 代表取締役 細川 真澄  
 e-mail [info@hosokawajushi.co.jp](mailto:info@hosokawajushi.co.jp)

(4) 環境管理責任者 細川 真澄

(5) 環境事務局 細川 春美、柴田 和治  
 e-mail [info@hosokawajushi.co.jp](mailto:info@hosokawajushi.co.jp)

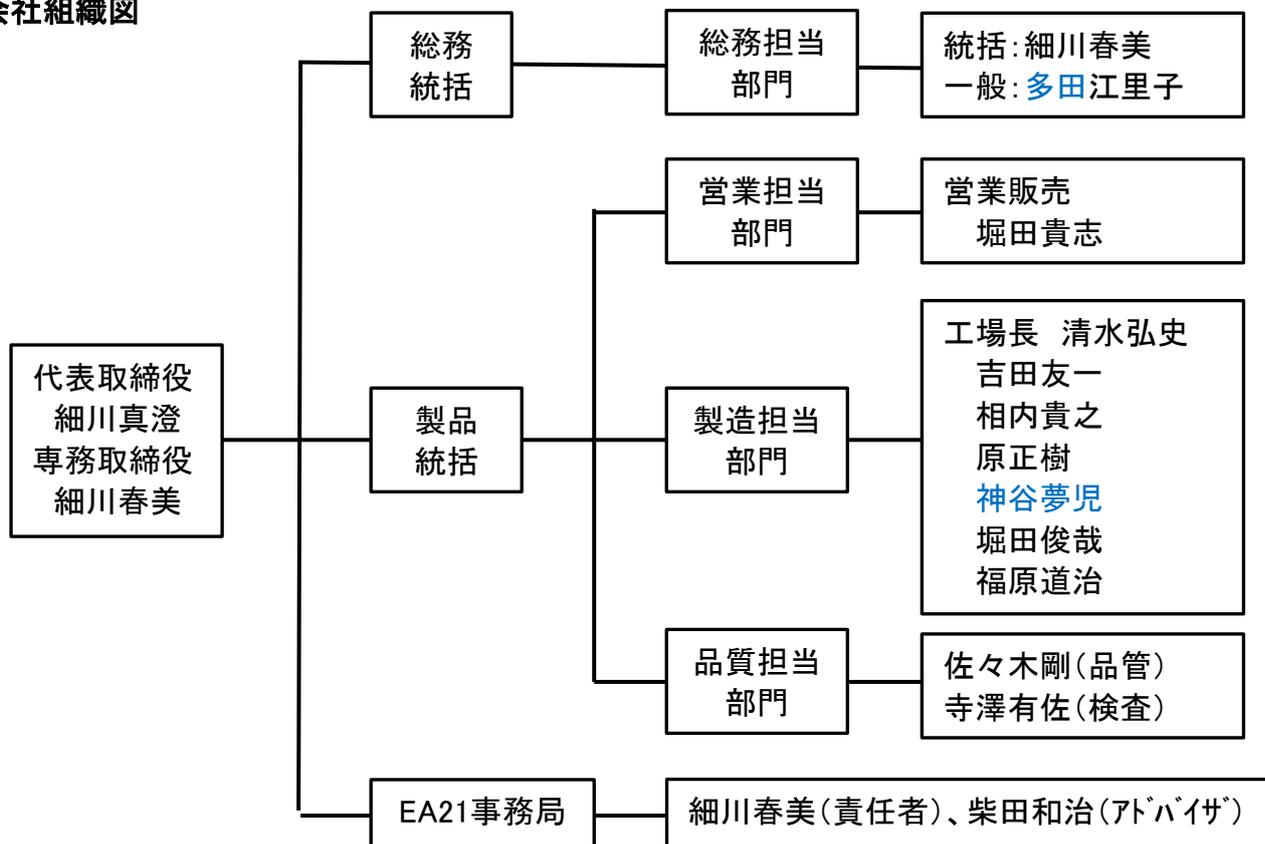
(6) 事業規模

設立	1990年3月
資本金	1000万円
社員数	13名(2018年6月現在)
年間売上	225百万円(2017年度)



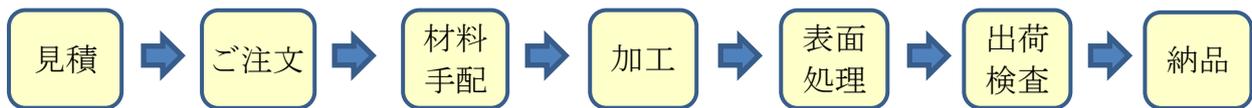
(7) 事業内容  
 樹脂加工品の製造・販売、樹脂素材の販売

## (8) 会社組織図



## 2. 対象範囲

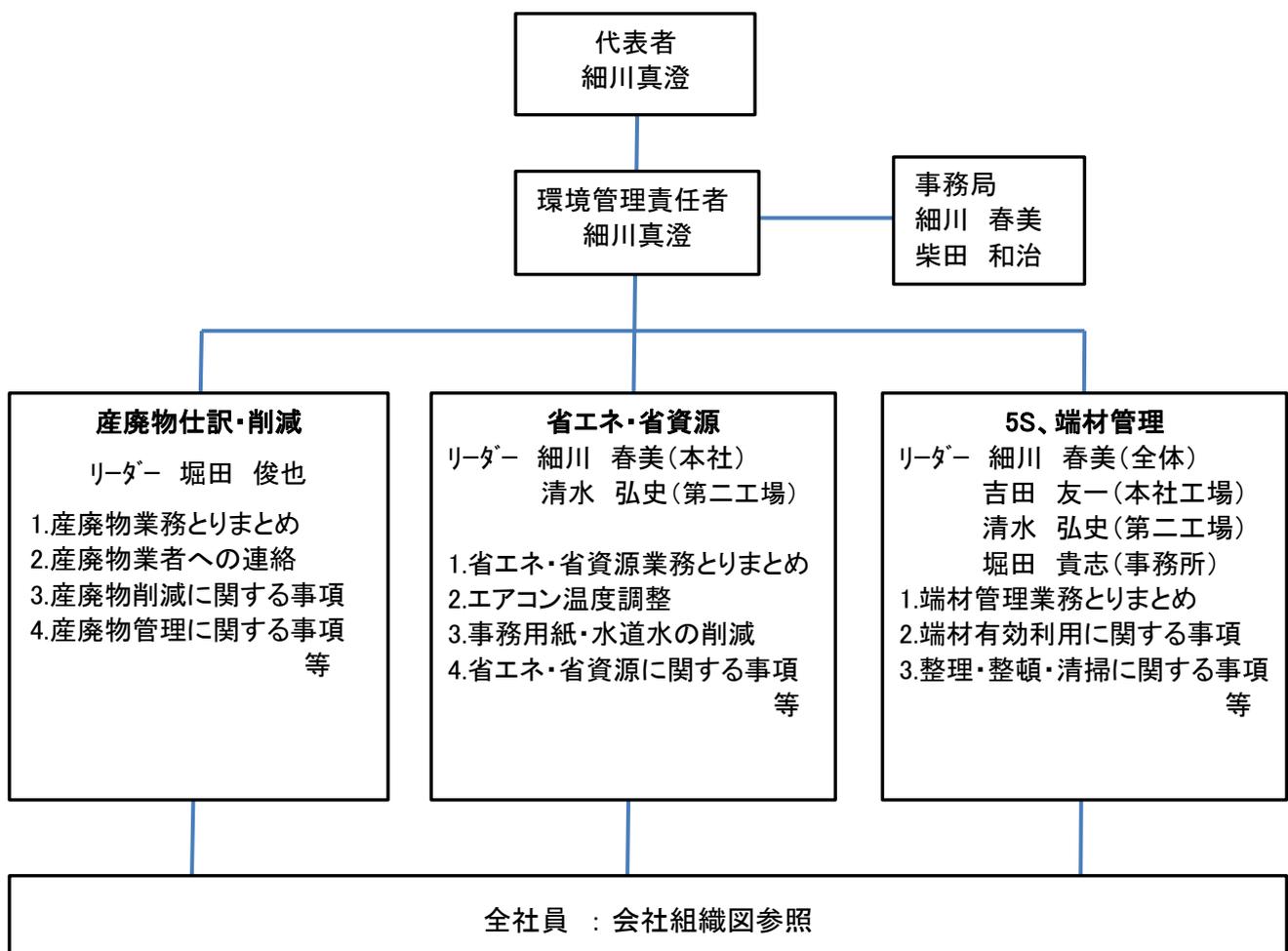
- (1) サイト  
有限会社 細川樹脂(本社、第2工場)
- (2) 対象 全社員
- (3) 事業活動  
樹脂加工品の製造・販売、樹脂素材の販売



注文加工の流れ

- (4) エコアクション21認証登録  
2012年8月31日登録、登録番号0008654

## 3. 環境経営組織 (2017年5月現在)



## 4. 環境経営方針

### 【基本理念】

当社は、プラスチック加工の事業活動を進めていく中で、環境保全が重要課題の一つとして認識し、豊かな社会の形成に貢献していくことを目指します。

### 【行動指針】

1. 事業活動に伴って発生する環境負荷の削減に努めます。
2. 環境経営システムを効果的に運用することにより、環境保全に努めるとともに継続的な改善を図ります。
3. 環境に関する法規制や地域との協定を順守します。
4. 環境経営活動の重点課題
  - (1) 品質確保と納期管理
  - (2) 工場、事務所内での省資源・省エネへの取組み
  - (3) 生産プロセスに伴う廃棄物の削減とリサイクル活動
  - (4) 危険物、災害などの防止
  - (5) 5S 活動による業務効率化と社員のモラル向上
5. 重点課題を達成するために、環境経営目標を定め、自主的且つ積極的に活動を展開するとともに、定期的に環境経営方針の見直しを実施します。
6. 環境経営方針を全社員に周知するとともに、環境経営レポートを作成し、ホームページで社外に公表します。

2017年3月15日

(有)細川樹脂

代表取締役 細川真澄

## 5. 環境経営計画

### 5.1 環境管理項目

2017年度の環境管理項目を表1に示す。

下表の達成度をみると、総合評価として目標レベルを達成できたと判定する。

表1. 環境管理項目の達成度

分類	管理項目		単位	基準 2015	2017		達成度
					目標	実績	
二酸化炭素	電力の削減	電力使用量	売上高比 kwh/百万円	537	475≥	466	○
	ガソリンの削減	ガソリン使用量	売上高比 L/百万円	11.7	9.5≥	8.6	○
	二酸化炭素換算 注1	CO2排出量	売上高比 kg-co2/百万円	308.4	290≥	264	○
省資源	樹脂材料の 有効利用	材料歩留り	製品化率%	55.5	58≤	50 注1	▼
	油脂類保管量 の削減	潤滑油購入量	売上高比 L/百万円	1.0	0.55≥	0.54	○
	コピー用紙 の削減	購入量	売上高比 kg/百万円	0.57	0.50≥	0.43	○
	水資源の節約	水道使用量	m3/人	239	1.85≥	1.75	○
	出荷品質確保	製造不具合率	%	-	20≥	21	◇
廃棄物	産廃物(廃プラ) の削減	廃プラ排出量 (売上高比)	kg/百万円	200	20≥	29 注2	▼
	一般廃棄物 の削減	一廃排出量	売上高比 kg/百万円	3.66	3.7≥	3.9	○
グリーン購 入	事務用品の グリーン化	エコマーク用品 購入比率	購入比率 %	78.8	79≤	77	◇
化学物質	化学物質の適正 管理	見える化管理	管理棚による 一元管理	管理表 作成	管理棚 管理	2017/9 ~	○

達成度の判例 ○: 目標クリア、◇: 目標到達、▼: 目標未達

注1 材料歩留り=製品重量/(製品重量+廃プラ排出量) : 歩留り向上には工程品質の確保が効果的!

注2 廃プラ排出量は、有価廃プラの購入業者解約により増加変動した : 目標管理基準を検討する。

注3 出荷品質(最終検査の不具合率)は略目標レベル到達。なお不具合品の流出防止は確実にした。

## 5.2 環境経営計画

表2に示す環境経営計画項目について継続的活動を推進中！

2017年度は、端材管理の改善及び化学物質の一元管理を導入した。

2018年度は、加工ミス削減・3S活動の目標管理を導入する。

表2. 環境経営計画

区分	計画項目と内容		状況
二酸化炭素	消費電力の削減	デマンドコントロールによる電力の削減 夏27℃ 冬20～22℃に設定	○
		エアコンフィルターの定期清掃	
		設備機械のアイドルストップ	
		照明機器は、不要時には電源OFF 事務所室内照明のLED化 2015/8～	
		OA機器は、夜間・休日には電源OFF	
	ガソリンの削減 (社有車)	社長専用車のHEVに代替 2015/8～	○
		アイドルストップ	
		急加速・急停車の防止	
冷暖房の控え目使用			
省資源	樹脂材料の有効活用	製品に合わせた材料取りの適正化	○
		端材管理の改善 2017/10～	
		機械加工ミスの削減 ⇒不具合流出防止	
		材料歩留りの目標管理	
	油脂類の削減	潤滑油購入量の適正化	○
		潤滑油置場の適正化	
	紙類購入量の削減	裏紙/両面焼きの励行	○
		注文書/見積書の電子データの活用	
	水資源の節約	トイレ/手洗い所に節水マークの表示	○
	化学物質	適正管理	定置棚による一元管理2017/10～
廃棄物	廃プラの削減	端材の有効活用	○
		加工ミス削減の目標管理2018/3～	
	一般廃棄物の削減	事務用紙の削減	○
		梱包用ダンボールの業者引取り	
5S活動	インフラ整備 倉庫新設:第二工場2階 整理棚設置:材料置場、治工具、検査機器、化学物質等	○	
3S(整理・整頓・清掃)活動の目標管理2018/3～			
品質確保	環境に優しい製品を目指して⇒不良品を作らない、不良品を流出しない		○

凡例 ○:計画通り実施済み

## 6. 環境経営活動の状況

### 6.1 環境経営活動の総合評価

- (1) 2017年度を総合的にみると、全社活動によって表3の年度目標を達成したと判定する。
- (2) 本来業務の効率化と環境経営に係る「5S活動」は、整理棚等のインフラ整備を確実にした。
- (3) エコアクション2017版の要求事項をクリアしている評価するが、継続的改善中。

表3 環境経営目標

要素区分	環境目標		基準	年度目標		
			2015	2016	2017	2018
二酸化炭素	1.電力の削減	電力使用量 (対売上高比)	537 kwh/百万円	毎年2%削減		
	2.ガソリンの削減	ガソリン使用量 (対売上高)	11.7 L/百万円	毎年2%削減		
	3.二酸化炭素 (12項から算出)	CO2排出量 注1 (対売上高)	308.4 kg-co2/百万円	毎年2%削減 (12項に含まれる)		
省資源	1.油脂保管量の減量	潤滑油購入量 (対売上高)	10 L/百万円	毎年2%削減		
	2.コピー用紙の削減	購入量 (対売上高)	0.57 kg/百万円	毎年2%削減		
	3.水資源の節約	水道使用量 (社員数比)	239 m3/人・年	毎年2%削減		
化学物質	チェックリストによる 化学物質の適正管理		1回/月	1回/半年		
廃棄物	廃プラの削減	廃プラ排出量 (対売上高)	200 kg/百万円	毎年2%削減		
	一般廃棄物の削減	一般廃棄物排出量 (対売上高)	366 kg/百万円	毎年2%削減		
5S	5S運動	3S 管理強化 3段階評価	注2	インフラ整備		A 評価 90%
製品グリーン化	樹脂素材の有効活用	材料歩留り	50.2%	55%	58%	60%
品質確保	製品の不良品削減	不良率%	注3			

注1. 電力のCO2排出係数は 0.525kg-CO2/kwh を採用

注2. 2017年度の5S 活動は、整理棚設置等インフラ整備を重点的に推進する

注3. 品質確保は、仕損に伴う廃棄物のみならず顧客満足の重要因子であり、目標管理を強化する。

### 6.2 次年度(2018年度)の取組

「表2.環境経営計画、表3.環境経営目標」を継続して、「品質確保」「納期遵守」「環境コストの削減」を重点課題として全社的活動を展開する。

## 7. 環境関連法規等の遵守状況

- (1) 環境関連法規等の遵守状況の確認; 下表参照
- (2) 環境関連法規への違反、訴訟等の有無  
環境関連法規に対しての違反はありません。  
また、関係当局及び利害関係者からの訴訟・指導・苦情等は、過去6年間ありません。

適用法規	届出施設	内容	遵守状況
1.川崎市条例 騒音・振動規制法	空気圧縮機 (7.5kw、11kw)	特定施設届出	○
		敷地境界線基準値の遵守	○
2.川崎市条例 廃棄物の処理及び清 掃に関する法律	なし	産廃物処理委託業者との契約書締結	○
		産廃物管理票による管理	○
3.川崎市火災予防条例	指定可燃物貯蔵施設	貯蔵施設の届出及び表示	○

## 8. 代表者による全体の評価と見直しの結果

### (1) 環境活動2017の全体評価

- ・一部目標未達はあったが、全体としては有効であったと評価する
- ・二酸化炭素排出量は、電力使用量、ガソリン消費量に節減効果がみられる。
- ・環境活動は、朝礼ミーティング・5S活動・社員教育を通じ、日常管理に取り組むことが出来た。
- ・産廃物に関連する目標管理は、有価廃プラの購入業者有無など条件設定に改善余地を残した。

### (2) 見直しの結果による課題2018

- ・「環境経営方針」を達成するために、QCD管理を重視した製品のグリーン化を目指す。
- ・2018年度は、品質経営システム(QMS)と連動する事業活動を重点的に推進する。
- ・外部要因による産廃物の管理条件を見直して、実践活動を確実にする。